

〈資料〉

久米島方言のアクセント資料 (7)
——比嘉方言 (その2) ——

上野善道

1. はじめに

沖縄県島尻郡久米島町方言のアクセント調査報告として、固有名詞（地名・人名）を前部要素とする生産的複合語のアクセント資料を継続的に提示している。今回は同島の5回目で、本誌前号の拙論（2022）と同じく旧仲里村（なかざとそん）の比嘉（〔ヒガ〕、方言ではジャー〔ム〕、謝武。音調記号は後出）の方言を取り上げるが、話者は別の方で、前回の中心話者である宇江城昌周氏より1歳若い、旧仲里村長であった(1)の方である。

(1) 話者：久米島町比嘉 平良 曾清（たいら そうせい）氏 昭和4(1929)年生まれ

前稿（2022: 99）にも書いたように、この固有名詞を前部要素とする複合語アクセント調査は、久米島では比嘉が最初であった。その後、項目を補訂しながら他集落にも調査の範囲を広げていった関係で、他の報告では入っている「〇〇（地名）の人」などの興味深い項目が含まれていないなどの違いがあった。加えて、この調査の確認と補充を計画していた段階で、最初の話者が家業のために調査の継続は不可能となってしまったという背景があった。

それを承けて今回は、別の(1)の話者から聞いた、「〇〇の人」を中心とした報告をする。ただし、平良氏には拙論（2020b）の「那覇語彙」を中心に伺っていた関係で、「生産的複合語」の方は時間の都合で一通りの確認に留め、「〇〇学校、-大学、-地方、-ガス」などの項目は省いた。

比嘉方言の生産的複合語を再度取り上げるのには、もう一つの理由がある。前稿の宇江城氏と本稿の平良氏の間には、複合名詞のアクセント単位の形成に大きな違いが観察されたので、それを示すのも本稿の狙いの一つである。

2. 表記

資料は本論の後にまとめて掲げるが、上記のアクセント単位の形成の仕方の違いを示すために、従来とは違った特殊な提示の仕方をする。

その前に、語音そのもののカナ表記はこれまでの一連の発表と異なる点はない。平良氏の発音した語音はそれに合わせて表記するが、その点における宇江城氏との相違は本稿の中心課題ではない。宇江城氏の「オランダ、クメジマ」などに対して、平良氏の「ウラン

ダ、クミジマ」などは、両者の言語の本質的な差ではなく、調査時の回答の際のスタイルの差に過ぎず、たまたまその時に、宇江城氏はより今風の形、平良氏はより古い方言的な形で答えたものと位置付けられるからである。平良氏も「鹿児島」は「カゴシマ」であったが、ある時は「カグシマ」と発音している。これらの背景には、調査語彙全般に硬めの漢語や公的な表現が多かったことも関わっている。本稿の主題は、その表面的な差ではなく、あくまでもその背後にあるアクセントにある。

なお、宇江城氏において、「儀間」が地名ではジ[マ]、人名ではギ[マ]となっているのは不統一ではなく、人名はいち早く標準語化しやすいためだと書いた（拙論 2022: 100）。これは平良氏においても、それぞれジ(一)[マ]とギ[マ]の形で確認できた。加えて、平良氏の「山里」の地名と人名では、前者が伝統的なヤマ[ザ]トウであるのに対して、人名、とりわけ「～先生」においてはヤマ[ザ]トとなるのも並行的な現象である。「先生」も一般名詞としては[シン]シーであるが、固有名詞としてその先生に言及するときには普通は-センセ]イとなる。

音調表記と状況符号は、前稿に合わせて(2)を用いる。音調は、助詞の有無を問わず言い切り形のものである。なお、今回は時間の関係で助詞付き形の調査をかなり省いたが、拙論（2017: 49-53）の宇江城氏に基づく調査報告の単独形、ガ付き形、カラ付き形を平良氏に聞いた範囲では一致するので、他も基本的に同一であるものと判断した。

(2)[: 上昇,] : 下降 ([を挟まずに¹] が2つあるのは二度下がり)。[ヒガ] (比嘉) は [ヒガ, [ヒガ]ガ, イ[ハ] (伊波) はイ[ハ, イハ[ガ。(): 発話によって出る (聞こえる) ことのある下降。<m> : 稀, <n> : 新, <o> : 古い形, <普> : こちらが普通, <聞> : 自分は使わないが、周りでは聞く。(OK) : 音声の聞き取りはこれで可と判断。【 】 : 筆者の注記。

3. 今回の資料の提示の仕方

ここまでは前稿と同じであるが、2節の冒頭に書いた「特殊な提示の仕方」とは次のことをさす。稿末資料の冒頭近くの代表的な例で(3)に示す（一部略）。主にこれに基づき、以下に「◎, ☆, ×」印、そして途中の説明を挟んで本節後半に「○, △, □」印の説明をする。

(3) 複合名詞項目	音形	前部要素,	後部要素
オランダ研究	◎ウラン[ダケンキュ]ー,	◎ウラン[ダ]	◎[ケン]キュー
	オラン[ダ]ケンキュ]ー		

1 拙論（2020: 100）の(2)に「[を挟まずに」としたのは入力ミス。また、p. 112「島袋先生」のシマ[ブ]クセンセイはシマ[ブ]クセンセ]イの入力ミスであった。訂正する。

広島研究	☆[ヒロ]シマケンキューー, ☆[ヒロ]シマ ヒロ[シマケンキューー], <聞>ヒロ[シ]マ ヒロ[シ]マケンキューー	◎[ケン]キューー
宮古名物	◎[ミヤ]クメイブ]ツ, ◎[ミヤ]ク, ◎[メイ]ブツ ○[ナー]クメイブ]ツ ◎<o>[ナー]ク	
八重山言葉	△[ヤエ]ヤマクトゥ]バ, ◎[ヤエ]ヤマ, ◎クトゥ[バ] ◎[イエー]マクトゥ]バ ◎[イエー]マ	
広島県	☆[ヒロ]シマケン, ×ヒロ[シ]マケン	☆[ヒロ]シマ, <聞>ヒロ[シ]マ

ここで「◎」印は、前稿の宇江城氏から得られたアクセント型と同じウラン[ダケンキューー]型で平良氏も発音したことを表わす（前述のように、語音のオランダかうランダかの差は問題としない。前部・後部要素単独形についても同様）。

一方、「無印」としたオラン[ダ]ケンキューーの型は平良氏からは得られなかったことを意味する。その無印の語形は宇江城氏の発音のままに掲げてある（以下同様）。ただし、その型の可否を逐一確認する余裕はなかったので、敢えて「×」は付けずに無印としてある。ごく一部、その形は言わないとの確認が取れたもののみ、「×」印を付けた。

他方で、☆[ヒロ]シマケンキューーと☆[ヒロ]シマの「☆」印は、平良氏が宇江城氏のヒロ[シマケンキューー]、ヒロ[シマ]ケンキューーとヒロ[シ]マとは異なるアクセント型で発音したことを意味する。これは、「広島」のアクセント自体が異なり、それを前部要素とする複合名詞も規則的に異なるアクセントとなっている例である。宇江城氏のヒロ[シ]マは、平良氏は使わないものの、聞くことはあるとのことだったので、<聞>を付けただけで「×」は付けなかった。ただ、特に耳にするとの情報もなかったヒロ[シ]マケンには「×」とした。

これらから、オラン[ダ]ケンキューー、アメ[リ]カケンキューー、ヒロ[シ]マケンキューーのように、低く始まって途中で上昇した後に下降が2回起こる型の有り（宇江城氏）と無し（平良氏）が、両者の顕著な相違点ということになる。その結果、宇江城氏においては1つの複合名詞に複数のアクセント型が存在することになる。これが本稿の主張したい点の一つである。今のところ、この2単位形（拙論 2022: 3.4 節）の存在は、久米島の中でも比嘉方言のみで、それも宇江城氏にしか現れていない。しかし、その出現は偶然とは思えないほど規則的である。その個人差の位置付けは、(容易ではないかもしれないが) 今後の調査に俟つ。

ただし、平良氏においても、「人名+先生」においては、イナ[ミ]ネセンセ]イ（稲嶺）、イケ[マ]センセ]イ（池間）、イ[ハ]センセ]イ（伊波）などが規則的に現れる。これは、久米島の真謝（まじゃ）方言（拙論 2020a）、嘉手苺（かでかる）方言（拙論 2020c）などにも、そして東京方言においても共通で、「人名+先生」は2単位形になる規則があるも

のと見る。

一方、人名以外では、イキ[ガシンシ]ー（男先生、イキ[ガ]、[シン]シー）、トゥシ[ユイシンシ]ー（年寄り、トゥシ[ユイ]）などの1単位形となる。もっとも、コー[チョ]ーシンシ]ー（校長、コー[チョ]ー）がコー[チョーシンシ]ーの他にも得られていること、地名ではゲン[マ]（群馬）においてゲン[マクトウ]バの他にゲン[マ]クトウ]バも可ということで、極く小数の例ではあるもののその型があるということは、なお詳しい調査が必要ではある²。

話を符号に戻すと、もう一つ、平良氏の[ミヤ]ク、<o>[ナー]ク（宮古）に対して[ミヤ]クメイブ]ツを記録しただけで先に進んでしまい、調査表にはもう一方の形の記載はないままとなっているものの、規則上から[ナー]クメイブツもある方が自然で、確認の機会があればこれも出て来るに違いないと予測した形には「○」印を付した。

ただし、フク[シ]マとフク[シ]マケン、[コー]チと[コー]チケンに対して、単独形[フク]シマ、コー[チ]もあるということであったが、それがあからと言つて、かなり固定化した「～県」において[フク]シマケン、コー[チ]ケンがあるとの保証ではなく、宇江城氏からも得られていないので、[フク]シマケン、コー[チ]ケンの形は記載しなかった。

一方で、「八重山言葉」に対する△[ヤエ]ヤマクトウ]バのように、この語形そのものは宇江城氏からは得られていないものの、単独形は両者ともに[ヤエ]ヤマと[イエー]マ、複合語も[イエー]マクトウ]バで同じであることから、宇江城氏に確認すれば、平良氏から得られた[ヤエ]ヤマクトウ]バもあるに違いないと判断した例には「△」印を付した。△印だけは、宇江城氏の発音に対する補充注記で、平良氏から得られた型であることを前提としたものである。

その他、平良氏から聞いていない項目は当然掲げず、平良氏だけから聞いた項目は、「□」印を付けて示した。□[ミナ]ミニホンシンブ]ン（南日本新聞）、□[ミナ]ミニホ()ンがそれである。前部要素を聞いていないので資料からは省いたが、関連項目として、新聞名の□[ナン]カイニチニチシンブ]ン（南海日日新聞）も得ている。

以上のことを示すために、若干複雑かとは思われるが、前号と照らし合わせることなく宇江城氏との異同を示す方法としてこの方式を採用したものである。記号がたくさん出て来たので、(4)に一覧できるようにまとめておく。

(4) 二人の話者の異同を示す記号の一覧

◎：両氏とも一致して使う型

☆：宇江城氏からは得られておらず、平良氏のみから得られた型

2 もっとも、「群馬言葉」はまず話題になることはないとのことであった。また、「与論名物」もヨ[ロンメイブ]ツの他にヨ[ロン]メイブ]ツも出たかと思つたが、よく観察するとヨ[ロン]メイ]ブツの2単位形のようなであった。ヨ[ロン]の後でポーズが入り、かつ後半が少し下がって始まるメイ]ブツであつて、下降の位置が単独形のものと同じであつたからである。ただ、2単位形だとしても、この単語がそうなる理由は不明である。

- ：未確認ながら、平良氏にあることが予想される型
△：未確認ながら、平良氏と同じ型が宇江城氏にもあると予想される型
□：平良氏だけから聞いた項目で、宇江城氏には未調査のもの
×：宇江城氏から得られた型で、平良氏は使わないとしたもの
無印：宇江城氏から得られた型で、平良氏からは得られなかったもの（不使用は未確認）

4. 両氏における個別のアクセントの違い

2 単位形か否かの大きな違いを除けば、前部要素・後部要素単独形で両氏の間でアクセントの異なる例は少なく、(5)～(7)の例があるだけである（一部は再掲）。

(5) 前部要素の地名における相違

項目	宇江城氏	平良氏
「福島」	フク[シ]マ	フク[シ]マだが、[フク]シマも
「富山」	[トヤ]マ	トヤ[マ]
「広島」	ヒロ[シ]マ	[ヒロ]シマだが、ヒロ[シ]マも耳にはする
「高知」	[コー]チ	[コー]チだが、コー[チ]も（人名「幸地」は[コー]チのみ）
「鳥島」	トゥイ[シマ]	トゥイ[シマ]だが、トゥイ[シ]マも
「仲里」	ナカ[ザト]	ナカ[ザ]トゥだが、ナカ[ザト]も

(6) 前部要素の人名における相違（「加藤，佐藤」は本土名）

「崎村」	サキ[ム]ラ	[サキ]ムラ
「新里」	[シン]ザト	[シン]ザトだが、シン[ザ]トも
「玉城」	[タマ]キ	タマ[キ]（とタマ[シ]ロ）（タマ[グシ]クは両者共通）
「加藤」	[カトー]	カ[トー]
「佐藤」	[サトー]	サ[トー]

(7) 後部要素における相違

「民謡」	ミン[ヨ]ー	[ミン]ヨ
------	--------	-------

（なお、複合名詞を聞いていないので資料からは省いたが、後部要素のギン[コ]ー（銀行）、クミ[ア]イ（組合）は一致している。）

5. 「○○（地名）の人」のアクセント

「○○（地名）の人」（-ンチュ）のアクセントを扱う。資料は稿末の末尾に掲げてあるが、ここからは無印ではあるものの、平良氏だけの資料で、□に相当する内容である。

まず、語形成上の例外的なものから入るが、「オランダの人、アメリカの人」は-ンチュではなく、最後の母音を延ばす形のウラン[ダ]ー、アメ[リカ]ーを取る。少なくとも、[×]ウラン

[ダン]チュは言わないと確認してある。また、アメ[リカ]ーは、対象に対してニュートラルな意味で使うという。

上記以外の調査語彙には -ンチュが付くが、これは前部要素に応じて振る舞いが異なる。

語頭2モーラが高い単語からの派生形は、元の形がすでに第3モーラで低くなっている場合は -ンチュはそのまま低く付く。[カゴ]シマに対して[カゴ]シマンチュとなる例である。一方、[ナゼ] (名瀬), [ヒガ] (比嘉), [ドー] (堂=宇江城の別名) の下降のない2モーラ語には、後続する -ンチュの -ンまでが前の1音節の中に取り込まれ、残りが低い[ナゼン]チュ, [ヒガン]チュ, [ドーン]チュとなる。

語頭1モーラだけが低い下降タイプの1音節語[オ]ー (奥武) はそのまま[オ]ーンチュとなり、上昇タイプの1音節語ト[ー] (唐) のトーン[チュ]と当然異なる。これに[ドーン]チュを加えた1音節語の3項対立は島内の真謝方言 (拙論 2020a: 198-199), 具志川方言 (拙論 2021: 116) にも見られる。2音節語以上の中の重音節は、語頭の音調を問わず平調が原則で、語末でのみ下降調 (-○]M) が現れ得るが、上昇調 (-○[M) は現れない。その点でも、ここに見た1音節語は特異なケースである。

次に、低く始まる名詞は、第2・第3モーラが1音節をなさない限り第3モーラから上昇して-ン]チュが続く。ヤマ[トゥ] (大和=本土), シマ[ジリ] (島尻) は、それぞれヤマ[トゥン]チュ, シマ[ジリン]チュとなる。「鳥島」は、トウイ[シマ]であろうとトウイ[シ]マであろうと、トウイ[シマン]チュとなる。ただし、ヤマ[グシ]ク (山城), カニ[グシ]ク (兼城) の-[グシ]クのように上昇後にすでに2モーラ高くなって下降している場合は、そのまま -ンチュが続いてヤマ[グシ]クンチュ, カニ[グシ]クンチュとなり、^{*}ヤマ[グシクン]チュなどにはならない。

ヤラ[ド]ー (謝名堂), ウチ[ナ]ー (沖縄) などの語末重音節語に -ンチュが付くと、ヤラ[ドーン]チュ, ウチ[ナーン]チュのように超重音節全体が高くなる。ただし、グシ[チャ]ー (具志川) だけは、^{*}グシ[チャー]ンチュにはならず (この形も最初の調査では出たが、確認調査では否定された), 長音が短くなってグシ[チャン]チュと言う³。

また、第2・第3モーラが1音節をなすヨ[ロン] (与論) はヨロン[チュであるのに対して、キ[カイ] (喜界) とマ[ガイ] (真我里) の方はキカ[イン]チュ, マガ[イン]チュである。これは、前者は-ンという音配列がないこと、後者は元の二重母音の-アイのイの相対的独立性が強く、それが-ンが結びつくことによって-インがまとまった1音節をなすことが関与していると見る。そして、前者も後者も語頭から3音節目で上昇している。

最後に、ジ[マ] (儀間) はジマン[チュとなって規則的に第3音節で高くなるのに対して、単独形が同じアクセントのシ[マ] (島) はシ[マン]チュである。これは、「島」と

3 拙論 (2021: 116) で、具志川 (グッ[チャ]ー) 方言の「具志川の人」はグッ[チャン]チュとなって^{*}グッ[チャー]ンチュを避けているのは、グッ-が重音節であることがリズム面で関与している可能性を指摘したが、比嘉方言ではグシ[チャ]ーでありながら超重音節の短縮化が起こっていることになる。なお、真謝方言では、グシ[チャ]ーで、そのままグシ[チャー]ンチュである。

いう固有地に住む人の意味ではなく、「シマンチュ」という広く使われる沖縄普通語になっているもので、他からの借用語なのであろう。この最後の2段落で述べた振る舞いは、真謝方言 (拙論 2020a : 198-199) のそれと共通している。

[参照文献]

- 上野善道 (2017) 「久米島方言のアクセント資料」木部暢子編『消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究 久米島方言調査報告書』, 国立国語研究所:43-61. 【この儀間方言の記述には重大な入力ミスがあった。正誤表は上野 (2023: 31) にある。】
- 上野善道 (2020a) 「久米島方言のアクセント資料 (3) 【——真謝方言——】」『南島文化』42: 193-208.
- 上野善道 (2020b) 「久米島方言の体言のアクセント資料——那覇語彙 (1) ——」『琉球の方言』44: 189-241.
- 上野善道 (2020c) 「久米島方言のアクセント資料 (4) 【——嘉手苅方言——】」『南島文化』43: 105-121. 【p. 108 注4の最後, 「見るとの」→「見るのと」と訂正】
- 上野善道 (2021) 「久米島方言のアクセント資料——具志川方言——」『南島文化』44: 109-127.
- 上野善道 (2022) 「久米島方言のアクセント資料 (6) ——比嘉方言——」『南島文化』45: 99-120.
- 上野善道 (2023) 「久米島方言の外来語のアクセント資料 (1) ——儀間方言——」『琉球の方言』46: 1-46.

[付記] ご多用中にもかかわらずご教示下さった話者の平良曾清氏に厚く御礼を申し上げます。また、査読者からの指摘で誤記を正すことができました。

本稿は JSPS 科学研究費 19H00530 (代表者: 窪園晴夫) による研究成果の一部である。同時に、国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本・琉球語諸方言におけるイントネーションの多様性解明のための実証的研究」(プロジェクトリーダー: 五十嵐陽介), 並びに「消滅危機言語の保存研究」(プロジェクトリーダー: 山田真寛) の研究成果も兼ねる。

複合語	比嘉複合語アクセント(平良)	前部アクセント	後部アクセント
オランダ研究	◎ウラン[ダケンキュ]ー, オラン[ダ]ケンキュー	◎ウラン[ダ]	◎[ケン]キュー
アメリカ研究	◎アメ[リカケンキュ]ー, アメ[リ]カケンキュー	◎アメ[リ]カ	◎[ケン]キュー
鹿児島研究	◎[カゴ]シマケンキュー, カゴ[シマケンキュ]ー	◎[カゴ]シマ	◎[ケン]キュー
広島研究	☆[ヒロ]シマケンキュー, ヒロ[シマケンキュ]ー, ヒロ[シ]マケンキュー	☆[ヒロ]シマ, <聞>ヒロ[シ]マ	◎[ケン]キュー
オランダ製品	◎ウラン[ダセイヒ]ン, オラン[ダ]セイヒン	◎ウラン[ダ]	◎[セイ]ヒン
アメリカ製品	◎アメ[リカセイヒ]ン, アメ[リ]カセイヒン	◎アメ[リ]カ	◎[セイ]ヒン
鹿児島製品	◎[カゴ]シマセイヒン	◎[カゴ]シマ	◎[セイ]ヒン
広島製品	☆[ヒロ]マセイヒン, ヒロ[シマセイヒ]ン, ヒロ[シ]マセイヒン	☆[ヒロ]シマ, <聞>ヒロ[シ]マ	◎[セイ]ヒン
オランダ名物	◎オラン[ダメイブ]ツ, オラン[ダ]メイブツ	◎ウラン[ダ]	◎[メイ]ブツ
アメリカ名物	◎アメ[リカメイブ]ツ, アメ[リ]カメイブツ	◎アメ[リ]カ	◎[メイ]ブツ
鹿児島名物	◎[カゴ]シマメイブツ, カゴ[シマメイブ]ツ	◎[カゴ]シマ	◎[メイ]ブツ
広島名物	☆[ヒロ]シマメイブツ, ヒロ[シマメイブ]ツ, ヒロ[シ]マメイブツ	☆[ヒロ]シマ, <聞>ヒロ[シ]マ	◎[メイ]ブツ
久米島名物	◎クミ[ジマメイブ]ツ, クメ[ジマ]メイブツ	◎クミ[ジマ]	◎[メイ]ブツ
沖縄名物	◎オキ[ナワメイブ]ツ, オキ[ナ]ワメイブツ, △ウチ[ナーメイブ]ツ	◎オキ[ナ]ワ, ◎ウチ[ナー]	◎[メイ]ブツ
那覇名物	◎ナー[ハメイブ]ツ, ナー[ハ]メイブツ	◎ナー[ハ]	◎[メイ]ブツ
宮古名物	◎[ミヤクメイブ]ツ, ○[ナー]クメイブツ	◎[ミヤク], ◎<o>[ナー]ク (OK)	◎[メイ]ブツ
石垣名物	◎イシ[ガチメイブ]ツ, イシ[ガ]キメイブツ	◎イシ[ガ]チ	◎[メイ]ブツ
与那国名物	◎[ユナグニメイブ]ツ	◎[ユナ]グニ	◎[メイ]ブツ
与論名物	☆ヨ[ロンメイブ]ツ (2単位形ヨ[ロン][メイ]ブツもか)	◎ヨ[ロン]	◎[メイ]ブツ
沖永良部名物	◎ウキ[エラブメイブ]ツ, オキ[エラ]ブメイブツ	◎ウキ[エラ]ブ, エラ[ブ]	◎[メイ]ブツ

複合語	比嘉複合語アクセント(平良)	前部アクセント	後部アクセント
徳之島名物	◎トゥク[ヌシマメイブ]ツ, トク[ノシ]マメイブツ	◎トゥク[ヌシ]マ	◎[メイ]ブツ
大島名物	◎オー[シマメイブ]ツ, オー[シマ]メイブツ	◎オー[シマ]	◎[メイ]ブツ
名瀬名物	◎[ナゼ]メイブツ	◎[ナゼ]	◎[メイ]ブツ
喜界名物	キ[カイ]メイブツ, ◎キカイ[メイブ]ツ, キ[カイ]メーブツ, △キカイ[ジマメイブ]ツ	◎キ[カイ], ◎<普>キカイ[ジ]マ (喜界島)	◎[メイ]ブツ
東京名物	◎[トー]キョーメイブツ	◎[トー]キョー	◎[メイ]ブツ
八重山名物	○[ヤエ]ヤマメイブツ, ◎[イエー]マメイブツ	◎[ヤエ]ヤマ, ◎[イエー]マ	◎[メイ]ブツ
奄美新聞	◎アマ[ミシンプ]ン, アマ[ミ]シンプン	◎アマ[ミ]	◎シン[ブン]
大島新聞	◎オー[シマシンプ]ン, オー[シマ]シンプン	◎オー[シマ]	◎シン[ブン]
奄美大島新聞	◎アマ[ミオーシマシンプ]ン, アマ[ミ]オーシマシンプン	◎アマ[ミオーシ]マ, アマ[ミ]オーシマ	◎シン[ブン]
南日本新聞	□[ミナ]ミニホンシンプン	□[ミナ]ミニホ()ン	◎シン[ブン]
琉球新報	◎リユー[キューシンポー]ー, リユー[キュー]ーシンポー	◎リユー[キュー]ー	◎シン[ポー]
沖縄タイムス	◎オキ[ナワタイム]ス, オキ[ナ]ワタイムス	◎オキ[ナ]ワ	◎タイ[ム]ス
オランダ民謡	◎オラン[ダミンヨ]ー, オラン[ダ]ミンヨー	◎オラン[ダ]	☆[ミン]ヨー, ミン[ヨ]ー
アメリカ民謡	◎アメ[リカミンヨ]ー, アメ[リ]カミンヨー	◎アメ[リ]カ	☆[ミン]ヨー, ミン[ヨ]ー
鹿児島民謡	◎[カゴ]シマミンヨー	◎[カゴ]シマ	☆[ミン]ヨー, ミン[ヨ]ー
広島民謡	☆[ヒロ]シマミンヨー, ヒロ[シマミンヨ]ー, ヒロ[シ]マミンヨー	☆[ヒロ]シマ, <聞>ヒロ[シ]マ	☆[ミン]ヨー, ミン[ヨ]ー
オランダ文化	◎オラン[ダブン]クワ, オラン[ダ]ブンカ	◎オラン[ダ]	◎ブン[クワ]
アメリカ文化	◎アメ[リカブン]クワ, アメ[リ]カブンカ	◎アメ[リ]カ	◎ブン[クワ]
鹿児島文化	◎[カゴ]シマブンクワ, カゴ[シマブン]カ	◎[カゴ]シマ	◎ブン[クワ]
広島文化	☆[ヒロ]シマブンクワ, ヒロ[シマブン]カ, ヒロ[シ]マブンカ	☆[ヒロ]シマ, <聞>ヒロ[シ]マ	◎ブン[クワ]

複合語	比嘉複合語アクセント(平良)	前部アクセント	後部アクセント
オランダ土産	◎オラン[ダミヤ]ギ, オラン[ダ]ミヤ]ギ	◎オラン[ダ]	◎ミヤ[ギ], ☆<o>チ[トゥ(苞)
アメリカ土産	◎アメ[リカミヤ]ギ, アメ[リ]カミヤ]ギ	◎アメ[リ]カ	◎ミヤ[ギ], ☆<o>チ[トゥ(苞)
鹿児島土産	◎[カゴ]シマミヤ]ギ	◎[カゴ]シマ	◎ミヤ[ギ], ☆<o>チ[トゥ(苞)
広島土産	☆[ヒロ]シマミヤ]ギ, ヒロ[シマミヤ]ギ, ヒロ[シ]マミヤ]ギ	☆[ヒロ]シマ, <聞>ヒロ[シ]マ	◎ミヤ[ギ], ☆<o>チ[トゥ(苞)
オランダ料理	◎オラン[ダリョー]リ, オラン[ダ]リョー]リ	◎オラン[ダ]	◎リョー[リ]
アメリカ料理	◎アメ[リカリョー]リ, アメ[リ]カリョー]リ	◎アメ[リ]カ	◎リョー[リ]
鹿児島料理	◎[カゴ]シマリョー]リ, カゴ[シマリョー]リ	◎[カゴ]シマ	◎リョー[リ]
広島料理	☆[ヒロ]シマリョー]リ, ヒロ[シマリョー]リ, ヒロ[シ]マリョー]リ	☆[ヒロ]シマ, <聞>ヒロ[シ]マ	◎リョー[リ]
オランダ旅行	◎オラン[ダロコ]ー, オラン[ダ]リョコ]ー	◎オラン[ダ]	◎ロ[コー]
アメリカ旅行	◎アメ[リカロコ]ー, アメ[リ]カリョコ]ー	◎アメ[リ]カ	◎ロ[コー]
鹿児島旅行	◎[カゴ]シマロコ]ー	◎[カゴ]シマ	◎ロ[コー]
広島旅行	☆[ヒロ]シマロコ]ー, ヒロ[シマリョコ]ー, ヒロ[シ]マリョコ]ー	☆[ヒロ]シマ, <聞>ヒロ[シ]マ	◎ロ[コー]
オランダレモン	◎オラン[ダレモン], オラン[ダ]レモン	◎オラン[ダ]	◎レ[モン]
アメリカレモン	◎アメ[リカレモン], アメ[リ]カレモン	◎アメ[リ]カ	◎レ[モン]
鹿児島レモン	◎[カゴ]シマレモン, カゴ[シマレモン]	◎[カゴ]シマ	◎レ[モン]
広島レモン	☆[ヒロ]シマレモン, ヒロ[シマレモン], ヒロ[シ]マレモン	☆[ヒロ]シマ, <聞>ヒロ[シ]マ	◎レ[モン]
男先生	◎イキ[ガシンシ]ー	◎イキ[ガ]	◎[シン]シー, ◎[セン]セイ
女先生	◎イナ[グシンシ]ー	◎イナ[グ]	◎[シン]シー, ◎[セン]セイ
年寄り先生	◎トゥシ[ユイシンシ]ー	◎トゥシ[ユイ]	◎[シン]シー, ◎[セン]セイ

複合語	比嘉複合語アクセント(平良)	前部アクセント	後部アクセント
若先生	◎ワカー[シンシ]ー, ワ[カー]センセイ, [ワ]カセンセイ	◎ワ[カー]	◎[シン]シー, ◎[セン]セイ
教頭先生	◎[キョー]トーシンシ]ー	◎[キョー]トー	◎[シン]シー, ◎[セン]セイ
校長先生	◎コー[チョ]ーシンシ]ー (OK), ◎コー[チョーシンシ]ー	◎コー[チョ]ー	◎[シン]シー, ◎[セン]セイ
島袋先生	◎シマ[ブ]クセンセイイ, ◎シマ[ブク]ロセンセイ	◎<o>シマ[ブ]ク, ◎シマ[ブク]ロ	◎[セン]セイ(以下 センセイのみ記載)
新垣先生	◎[アラ]カチセンセイ, [シン]ガキセンセイ	◎[アラ]カチ, [シン]ガキ	◎[セン]セイ
糸数先生	◎イト[カ]ズセンセイ	◎イト[カ]ズ	◎[セン]セイ
稲嶺先生	◎イナ[ミ]ネセンセイ	◎イナ[ミ]ネ	◎[セン]セイ
宇江城先生	◎[ウエ]シロセンセイ	◎[ウエ]シロ	◎[セン]セイ
上原先生	◎[ウエ]ハラセンセイ	◎[ウエ]ハラ	◎[セン]セイ
大城先生	◎オー[シ]ロセンセイ	◎オー[シ]ロ	◎[セン]セイ
金城先生	◎[キン]ジョーセンセイイ, ○カネ[グシ]クセンセイ	◎[キン]ジョー, ◎<o>カネ[グシ]ク	◎[セン]セイ
具志堅先生	◎[グシ]ケンセンセイ	◎[グシ]ケン	◎[セン]セイ
国吉先生	◎[クニ]ヨシセンセイ	◎[クニ]ヨシ	◎[セン]セイ
崎村先生	◎[サキ]ムラセンセイ, サキ[ム]ラセンセイ	◎[サキ]ムラ, サキ[ム]ラ	◎[セン]セイ
佐久川先生	◎サク[ガ]ワセンセイ, ◎サク[ガ]ーセンセイ	◎サク[ガ]ワ, ◎サク[ガ]ー	◎[セン]セイ
新里先生	◎[シン]ザトセンセイ, ☆シン[ザ]トセンセイ	◎[シン]ザト, ☆シン[ザ]トも	◎[セン]セイ
新城先生	◎[シン]ジョーセンセイイ, アラ[シ]ロセンセイ, ○アラ[グシ]クセンセイ	◎<n>[シン]ジョー, アラ[シ]ロ, ◎アラ[グシ]ク	◎[セン]セイ
高江洲先生	◎タカ[エ]スセンセイ (OK)	◎タカ[エ]ス (je的)	◎[セン]セイ
仲宗根先生	◎ナカ[ソ]ネセンセイ	◎ナカ[ソ]ネ	◎[セン]セイ
仲原先生	◎ナカ[ハ]ラセンセイ	◎ナカ[ハ]ラ	◎[セン]セイ
仲村先生	◎ナカ[ム]ラセンセイ	◎ナカ[ム]ラ	◎[セン]セイ
前里先生	◎マエ[ザ]トセンセイ	◎マエ[ザ]ト	◎[セン]セイ
真栄平先生	◎マエ[ヒ]ラセンセイ	◎マエ[ヒ]ラ	◎[セン]セイ
又吉先生	◎[マタ]ヨシセンセイ	◎[マタ]ヨシ	◎[セン]セイ
宮里先生	◎ミヤ[ザ]トセンセイ	◎ミヤ[ザ]ト	◎[セン]セイ
宮平先生	◎[ミヤ]ヒラセンセイ	◎[ミヤ]ヒラ	◎[セン]セイ
本永先生	◎モト[ナ]ガセンセイ	◎モト[ナ]ガ	◎[セン]セイ
盛吉先生	◎[モリ]ヨシセンセイ	◎[モリ]ヨシ	◎[セン]セイ
安村先生	◎ヤス[ム]ラセンセイ	◎ヤス[ム]ラ	◎[セン]セイ

複合語	比嘉複合語アクセント(平良)	前部アクセント	後部アクセント
山川先生	◎ヤマ[ガ]ーセンセイイ,	◎ヤマ[ガ]ー,	◎[セン]セイ
	◎ヤマ[カ]ワセンセイイ	◎ヤマ[カ]ワ	
山里先生	◎ヤマ[ザ]トセンセイイ	◎ヤマ[ザ]ト	◎[セン]セイ
山城先生	◎ヤマ[シ]ロセンセイイ	◎ヤマ[シ]ロ	◎[セン]セイ
吉永先生	◎ヨシ[ナ]ガセンセイイ	◎ヨシ[ナ]ガ	◎[セン]セイ
吉原先生	◎ヨシ[ハ]ラセンセイイ	◎ヨシ[ハ]ラ	◎[セン]セイ
与那嶺先生	◎ヨナ[ミ]ネセンセイイ	◎ヨナ[ミ]ネ	◎[セン]セイ
高橋先生	◎タカ[ハ]シセンセイイ	◎タカ[ハ]シ	◎[セン]セイ
渡辺先生	◎ワタ[ナ]ベセンセイイ	◎ワタ[ナ]ベ	◎[セン]セイ
池間先生	◎イケ[マ]センセイイ	◎イケ[マ]	◎[セン]セイ
内間先生	◎[ウチ]マセンセイイ	◎[ウチ]マ	◎[セン]セイ
大田先生	◎オー[タ]センセイイ	◎オー[タ]	◎[セン]セイ
我那覇先生	◎ガナ[ハ]センセイイ	◎ガナ[ハ]	◎[セン]セイ
下地先生	◎[シモ]ジセンセイイ	◎[シモ]ジ	◎[セン]セイ
平良先生	◎[タイ]ラセンセイイ	◎[タイ]ラ	◎[セン]セイ
高良先生	◎[タカ]ラセンセイイ	◎[タカ]ラ	◎[セン]セイ
田里先生	◎タサ[ト]センセイイ	◎タサ[ト]	◎[セン]セイ
玉城先生	○タマ[キ]センセイイ [タマ]キセンセイイ, △タマ[シ]ロセンセイイ, ○タマ[グシ]クセンセイイ	☆タマ[キ], [タマ]キ, △タマ[シ]ロ, ◎タマ[グシ]ク	◎[セン]セイ
多和田先生	◎タワ[タ]センセイイ	◎タワ[タ]	◎[セン]セイ
津波古先生	◎ツハ[コ]センセイイ	◎ツハ[コ]	◎[セン]セイ
照屋先生	◎テル[ヤ]センセイイ	◎テル[ヤ]	◎[セン]セイ
平田先生	◎[ヒラ]タセンセイイ	◎[ヒラ]タ	◎[セン]セイ
宮城先生	◎ミヤ[ギ]センセイイ	◎ミヤ[ギ]	◎[セン]セイ
加藤先生	☆カ[トー]センセイイ, [カトー]センセイイ	☆カ[トー], [カトー]	◎[セン]セイ
木村先生	◎キム[ラ]センセイイ	◎キム[ラ]	◎[セン]セイ
佐藤先生	☆サ[トー]センセイイ, [サトー]センセイイ	☆サ[トー], [サトー]	◎[セン]セイ
柴田先生	△シバ[タ]センセイイ, [シバ]タセンセイイ	◎シバ[タ], [シバ]タ	◎[セン]セイ
鈴木先生	◎スズ[キ]センセイイ	◎スズ[キ]	◎[セン]セイ
田中先生	◎タナ[カ]センセイイ	◎タナ[カ]	◎[セン]セイ
山田先生	◎ヤマ[ダ]センセイイ	◎ヤマ[ダ]	◎[セン]セイ
吉田先生	◎ヨシ[ダ]センセイイ	◎ヨシ[ダ]	◎[セン]セイ
伊波先生	◎イ[ハ]センセイイ	◎イ[ハ]	◎[セン]セイ
儀間先生	◎ギ[マ]センセイイ	◎ギ[マ]	◎[セン]セイ
比嘉先生	◎[ヒガ]センセイイ	◎[ヒガ]	◎[セン]セイ
与儀先生	◎[ヨギ]センセイイ	◎[ヨギ]	◎[セン]セイ

複合語	比嘉複合語アクセント(平良)	前部アクセント	後部アクセント
男言葉	◎イキ[ガクトゥ]バ, イキ[ガ]クトゥ]バ	◎イキ[ガ]	◎クトゥ[バ]
女言葉	◎イナ[グクトゥ]バ, イナ[グ]クトゥ]バ	◎イナ[グ]	◎クトゥ[バ]
島言葉	◎シマ[クトゥ]バ	◎シ[マ]	◎クトゥ[バ]
オランダ言葉	◎オラン[ダクトゥ]バ, オラン[ダ]クトゥ]バ	◎オラン[ダ]	◎クトゥ[バ]
アメリカ言葉	◎アメ[リカクトゥ]バ, アメ[リ]カクトゥ]バ	◎アメ[リ]カ	◎クトゥ[バ]
北海道言葉	◎ホッカイ[ドークトゥ]バ, ホッカイ[ド]ークトゥ]バ	◎ホッカイ[ド]ー	◎クトゥ[バ]
青森言葉	◎アオ[モリクトゥ]バ, アオ[モ]リクトゥ]バ	◎アオ[モ]リ	◎クトゥ[バ]
秋田言葉	◎アキ[タクトゥ]バ, アキ[タ]クトゥ]バ	◎アキ[タ]	◎クトゥ[バ]
岩手言葉	◎イワ[テクトゥ]バ, イワ[テ]クトゥ]バ	◎イワ[テ]	◎クトゥ[バ]
山形言葉	◎ヤマ[ガタクトゥ]バ, ヤマ[ガ]タクトゥ]バ	◎ヤマ[ガ]タ	◎クトゥ[バ]
宮城言葉	◎ミヤ[ギクトゥ]バ, ミヤ[ギ]クトゥ]バ	◎ミヤ[ギ]	◎クトゥ[バ]
福島言葉	◎フク[シマクトゥ]バ, フク[シ]マクトゥ]バ 【☆か】[フク]シマクトゥ]バ	◎<普>フク[シ]マ, ☆[フク]シマとも	◎クトゥ[バ]
茨城言葉	◎イバ[ラギクトゥ]バ, イバ[ラ]ギクトゥ]バ	◎イバ[ラ]ギ (OK)	◎クトゥ[バ]
栃木言葉	◎トチ[ギクトゥ]バ, トチ[ギ]クトゥ]バ	◎トチ[ギ]	◎クトゥ[バ]
群馬言葉	◎グン[マクトゥ]バ, ◎グン[マ]クトゥ]バ	◎グン[マ]	◎クトゥ[バ]
埼玉言葉	◎サイ[タマクトゥ]バ, サイ[タ]マクトゥ]バ	◎サイ[タ]マ	◎クトゥ[バ]
東京言葉	◎トー[キョークトゥ]バ 【共通語 的意であろうか? Cf. 「京～」】 , ○[トー]キョークトゥ]バ	◎[トー]キョー	◎クトゥ[バ]
千葉言葉	◎[チバ]クトゥ]バ	◎[チバ]	◎クトゥ[バ]
神奈川言葉	◎カナ[ガワクトゥ]バ, カナ[ガ]ワクトゥ]バ	◎カナ[ガ]ワ	◎クトゥ[バ]
新潟言葉	◎[ニー]ガタクトゥ]バ, ニー[ガ]タクトゥ]バ, ニー[ガ]タクトゥ]バ	◎[ニー]ガタ	◎クトゥ[バ]
長野言葉	◎ナガ[ノクトゥ]バ, ナガ[ノ]クトゥ]バ	◎ナガ[ノ]	◎クトゥ[バ]

複合語	比嘉複合語アクセント(平良)	前部アクセント	後部アクセント
山梨言葉	◎ヤマ[ナシクトゥ]バ, ヤマ[ナ]シクトゥ]バ	◎ヤマ[ナ]シ	◎クトゥ[バ]
静岡言葉	◎シズ[オカクトゥ]バ, シズ[オ]カクトゥ]バ	◎シズ[オ]カ	◎クトゥ[バ]
富山言葉	☆トヤ[マクトゥ]バ, [トヤ]マクトゥ]バ	☆トヤ[マ, ×[トヤ]マ	◎クトゥ[バ]
岐阜言葉	◎[ギフ]クトゥ]バ	◎[ギフ]	◎クトゥ[バ]
愛知言葉	◎アイ[チクトゥ]バ, アイ[チ]クトゥ]バ	◎アイ[チ]	◎クトゥ[バ]
石川言葉	◎[イシ]カワクトゥ]バ, イシ[カワクトゥ]バ	◎[イシ]カワ	◎クトゥ[バ]
福井言葉	◎フ[クイクトゥ]バ, フ[クイ]クトゥ]バ	◎フ[クイ]	◎クトゥ[バ]
滋賀言葉	◎[シガ]クトゥ]バ	◎[シガ]	◎クトゥ[バ]
三重言葉	◎[ミエ]クトゥ]バ	◎[ミエ]	◎クトゥ[バ]
奈良言葉	◎[ナラ]クトゥ]バ	◎[ナラ]	◎クトゥ[バ]
京都言葉	◎キョー[トクトゥ]バ, キョー[ト]クトゥ]バ	◎キョー[ト]	◎クトゥ[バ]
大阪言葉	◎[オー]サカクトゥ]バ, オー[サカクトゥ]バ	◎[オー]サカ	◎クトゥ[バ]
和歌山言葉	◎[ワカ]ヤマクトゥ]バ	◎[ワカ]ヤマ	◎クトゥ[バ]
兵庫言葉	◎ヒョー[ゴクトゥ]バ, ヒョー[ゴ]クトゥ]バ	◎ヒョー[ゴ]	◎クトゥ[バ]
鳥取言葉	◎トツ[トリクトゥ]バ, トツ[ト]リクトゥ]バ	◎トツ[ト]リ	◎クトゥ[バ]
岡山言葉	◎[オカ]ヤマクトゥ]バ	◎[オカ]ヤマ	◎クトゥ[バ]
島根言葉	◎シマ[ネクトゥ]バ, シマ[ネ]クトゥ]バ	◎シマ[ネ]	◎クトゥ[バ]
広島言葉	☆[ヒロ]シマクトゥ]バ, ヒロ[シマクトゥ]バ, ヒロ[シ]マクトゥ]バ	☆[ヒロ]シマ, <聞>ヒロ[シ]マ	◎クトゥ[バ]
山口言葉	◎ヤマ[グチクトゥ]バ, ヤマ[グ]チクトゥ]バ	◎ヤマ[グ]チ	◎クトゥ[バ]
香川言葉	◎カガ[ワクトゥ]バ, カガ[ワ]クトゥ]バ	◎カガ[ワ]	◎クトゥ[バ]
徳島言葉	◎トク[シマクトゥ]バ, トク[シ]マクトゥ]バ	◎トク[シ]マ	◎クトゥ[バ]
愛媛言葉	◎イエヒ[メクトゥ]バ, イエヒ[メ]クトゥ]バ	◎イエヒ[メ]	◎クトゥ[バ]
高知言葉	◎[コー]チクトゥ]バ, ×コー[チクトゥ]バ	◎[コー]チ, ☆コー[チ]とも	◎クトゥ[バ]

複合語	比嘉複合語アクセント(平良)	前部アクセント	後部アクセント
福岡言葉	◎フク[オカクトゥ]バ, フク[オ]カクトゥ]バ	◎フク[オ]カ	◎クトゥ[バ]
大分言葉	◎オー[イタクトゥ]バ, オー[イ]タクトゥ]バ	◎オー[イ]タ	◎クトゥ[バ]
宮崎言葉	◎ミヤ[ザキクトゥ]バ, ミヤ[ザ]キクトゥ]バ	◎ミヤ[ザ]キ	◎クトゥ[バ]
熊本言葉	◎クマ[モトクトゥ]バ, クマ[モ]トクトゥ]バ	◎クマ[モ]ト	◎クトゥ[バ]
鹿児島言葉	◎[カグ]シマクトゥ]バ	◎[カグ]シマ	◎クトゥ[バ]
佐賀言葉	◎[サガ]クトゥ]バ	◎[サガ]	◎クトゥ[バ]
長崎言葉	◎[ナガ]サキクトゥ]バ	◎[ナガ]サキ	◎クトゥ[バ]
沖縄言葉	◎ウチ[ナークトゥ]バ, オキ[ナワクトゥ]バ	◎ウチ[ナ]ー, オキ[ナ]ワ	◎クトゥ[バ]
大和言葉(本土の)	◎ヤマ[トウクトゥ]バ	◎ヤマ[トウ]	◎クトゥ[バ]
久米島言葉	◎クミ[ジマクトゥ]バ	◎クメ[ジマ], ☆クミ[ジ]マ【他は クミ[ジマ]だがママ】	◎クトゥ[バ]
琉球言葉	◎リュウ[キュークトゥ]バ	◎リュウ[キュー]	◎クトゥ[バ]
那覇言葉	◎ナー[ハクトゥ]バ	◎ナー[ハ]	◎クトゥ[バ]
宮古言葉	◎[ミヤ]ククトゥ]バ, ミヤ[コクトゥ]バ	◎[ミヤ]ク	◎クトゥ[バ]
石垣言葉	◎イシ[ガキクトゥ]バ, イシ[ガ]キクトゥ]バ	◎イシ[ガ]キ	◎クトゥ[バ]
与那国言葉	◎[ユナ]グニクトゥ]バ	◎[ユナ]グニ	◎クトゥ[バ]
与論言葉	☆ヨ[ロンクトゥ]バ, ヨロン[クトゥ]バ, ヨロン[ジマクトゥ]バ	◎ヨ[ロン], ヨロン[ジ]マ	◎クトゥ[バ]
沖永良部言葉	◎オキ[エラブクトゥ]バ, オキ[エラ]ブクトゥ]バ	◎オキ[エラ]ブ	◎クトゥ[バ]
徳之島言葉	◎トク[ノシマクトゥ]バ	◎トク[ノシ]マ	◎クトゥ[バ]
大島言葉	◎オー[シマクトゥ]バ	◎オー[シマ]	◎クトゥ[バ]
名瀬言葉	◎[ナゼ]クトゥ]バ	◎[ナゼ]	◎クトゥ[バ]
喜界言葉	☆キ[カイクトゥ]バ, キカイ[クトゥ]バ, ◎キカイ[ジマクトゥ]バ	◎キ[カイ], ◎<普>キカイ[ジ]マ (喜界島)	◎クトゥ[バ]
京言葉	☆キョー[クトゥ]バ, [キョー]クトゥ]バ	◎[キョー]	◎クトゥ[バ]
八重山言葉	△[ヤエ]ヤマクトゥ]バ, ◎[イエー]マクトゥ]バ	◎[ヤエ]ヤマ, ◎[イエー]マ	◎クトゥ[バ]
西銘言葉	◎[ニシ]ミクトゥ]バ	◎[ニシ]ミ	◎クトゥ[バ]
大田言葉	◎オー[タクトゥ]バ, ◎ウフ[タクトゥ]バ, ウフ[タ]クトゥ]バ	◎オー[タ], ◎ウフ[タ]	◎クトゥ[バ]

複合語	比嘉複合語アクセント(平良)	前部アクセント	後部アクセント
嘉手刈言葉	◎カテ[カルクトゥ]バ, カテ[カ]ルクトゥバ	◎カテ[カ]ル	◎クトゥ[バ]
儀間言葉	☆ジー[マクトゥ]バ, ◎ジマ[クトゥ]バ	☆ジー[マ], ◎ジ[マ[◎クトゥ[バ]
山城言葉	◎ヤマ[グシククトゥ]バ, ヤマ[グシ]ククトゥバ	◎ヤマ[グシ]ク	◎クトゥ[バ]
阿嘉言葉	◎アー[カクトゥ]バ, アー[カ]クトゥバ	◎アー[カ]	◎クトゥ[バ]
宇江城言葉	☆[ウィー]グシククトゥバ ◎[ウエ]グシククトゥバ	☆[ウィー]グシク ◎[ウエ]グシク,	◎クトゥ[バ]
宇根言葉	◎[ウチャ]ムクトゥバ	◎[ウチャ]ム	◎クトゥ[バ]
上江洲言葉	◎ウィー[ジクトゥ]バ, ウィー[ジ]クトゥバ ○ウエ[ズクトゥ]バ	◎ウィー[ジ], ◎ウエ[ズ]	◎クトゥ[バ]
奥武言葉	◎[オー]クトゥバ	◎[オー]	◎クトゥ[バ]
大原言葉	◎オー[ハラクトゥ]バ, ◎[カイ]クンクトゥバ	オー[ハラ], ◎オー[ハ]ラ (f.)	◎クトゥ[バ]
兼城言葉	◎カニ[グシククトゥ]バ, カニ[グシ]ククトゥバ	◎[カイ]クン (開墾) ◎カニ[グシ]ク	◎クトゥ[バ]
具志川言葉	◎グシ[チャークトゥ]バ, グシ[チャ]ークトゥバ	◎グシ[チャ]ー	◎クトゥ[バ]
島尻言葉	◎シマ[ジリクトゥ]バ	◎シマ[ジリ]	◎クトゥ[バ]
謝名堂言葉	◎ヤラ[ドークトゥ]バ, ◎ジャナ[ロークトゥ]バ, ジャナ[ロ]ークトゥバ	◎ヤラ[ド]ー, ◎ジャナ[ロ]ー	◎クトゥ[バ]
銭田言葉	◎ジン[ジャクトゥ]バ	◎ジン[ジャ]	◎クトゥ[バ]
鳥島言葉	◎トゥイ[シマクトゥ]バ	◎トゥイ[シマ], ☆トゥイ[シ]マとも	◎クトゥ[バ]
仲地言葉	◎ナカ[チクトゥ]バ	◎ナカ[チ]	◎クトゥ[バ]
仲泊言葉	◎ナカ[ドゥマイクトゥ]バ	◎ナカ[ドゥマ]イ	◎クトゥ[バ]
仲村渠言葉	◎ナカン[ダカリクトゥ]バ	◎ナカン[ダカ]リ	◎クトゥ[バ]
比嘉言葉	◎ジャー[ムクトゥ]バ, △[ヒガ]クトゥバ	◎ジャー[ム] (謝武), ◎<n>[ヒガ]	◎クトゥ[バ]
比屋定言葉	◎ヒャー[ジョークトゥ]バ	◎ヒャー[ジョ]ー	◎クトゥ[バ]
真我里言葉	◎マ[ガイクトゥ]バ (OK)	☆マ[ガイ] (OK), マガ[リ]	◎クトゥ[バ]
真謝言葉	◎マー[ジャクトゥ]バ, マー[ジャ]クトゥバ	◎マー[ジャ]	◎クトゥ[バ]
山里言葉	◎ヤマ[ザトクトゥ]バ	◎ヤマ[ザ]トウ	◎クトゥ[バ]

複合語	比嘉複合語アクセント(平良)	前部アクセント	後部アクセント
仲里言葉	◎ナカ[ザトウクトゥ]バ	☆ナカ[ザ]トウ(-サトウ も. 共に山里と同ア), ◎ナカ[ザト]とも	◎クトウ[バ]
北海道	◎ホッカイ[ド]ー	◎ホッカイ[ド]ー	—
青森県	◎アオ[モ]リケン	◎アオ[モ]リ	—
秋田県	◎アキ[タ]ケン	◎アキ[タ]	—
岩手県	◎イワ[テ]ケン	◎イワ[テ]	—
山形県	◎ヤマ[ガ]タケン	◎ヤマ[ガ]タ	—
宮城県	◎ミヤ[ギ]ケン	◎ミヤ[ギ]	—
福島県	◎フク[シ]マケン	◎<普>フク[シ]マ, [フク]シマも	—
茨城県	◎イバ[ラ]ギケン	◎イバ[ラ]ギ	—
栃木県	◎トチ[ギ]ケン	◎トチ[ギ]	—
群馬県	◎グン[マ]ケン	◎グン[マ]	—
埼玉県	◎サイ[タ]マケン	◎サイ[タ]マ	—
東京都	◎[トー]キョート, トー[キョー]ト	◎[トー]キョー	—
千葉県	◎[チバ]ケン	◎[チバ]	—
神奈川県	◎カナ[ガ]ワケン	◎カナ[ガ]ワ	—
新潟県	◎[ニー]ガタケン	◎[ニー]ガタ	—
長野県	◎ナガ[ノ]ケン	◎ナガ[ノ]	—
山梨県	◎ヤマ[ナ]シケン	◎ヤマ[ナ]シ	—
静岡県	◎シズ[オ]カケン	◎シズ[オ]カ	—
富山県	☆トヤ[マ]ケン, ×[トヤ]マケン	☆トヤ[マ], ×[トヤ]マ	—
岐阜県	◎[ギフ]ケン	◎[ギフ]	—
愛知県	◎アイ[チ]ケン	◎アイ[チ]	—
石川県	◎[イシ]カワケン	◎[イシ]カワ	—
福井県	◎フ[クイ]ケン (OK)	◎フ[クイ]	—
滋賀県	◎[シガ]ケン	◎[シガ]	—
三重県	◎[ミエ]ケン	◎[ミエ]	—
奈良県	◎[ナラ]ケン	◎[ナラ]	—
京都府	◎キョー[ト]フ	◎キョー[ト]	—
大阪府	◎[オー]サカフ, × オー[サカ]フ	◎[オー]サカ	—
和歌山県	◎[ワカ]ヤマケン	◎[ワカ]ヤマ	—
兵庫県	◎ヒョー[ゴ]ケン	◎ヒョー[ゴ]	—
鳥取県	◎トツ[ト]リケン	◎トツ[ト]リ	—
岡山県	◎[オカ]ヤマケン	◎[オカ]ヤマ	—
島根県	◎シマ[ネ]ケン	◎シマ[ネ]	—
広島県	☆[ヒロ]シマケン, × ヒロ[シ]マケン	☆[ヒロ]シマ, <聞>ヒロ[シ]マ	—

複合語	比嘉複合語アクセント(平良)	前部アクセント	後部アクセント
山口県	◎ヤマ[グ]チケン	◎ヤマ[グ]チ	—
香川県	◎カガ[ワ]ケン	◎カガ[ワ]	—
徳島県	◎トク[シ]マケン	◎トク[シ]マ	—
愛媛県	◎イェヒ[メ]ケン	◎イェヒ[メ]	—
高知県	◎[コー]チケン	◎[コー]チ, ☆コー[チ]とも	—
福岡県	◎フク[オ]カケン	◎フク[オ]カ	—
大分県	◎オー[イ]タケン	◎オー[イ]タ	—
宮崎県	◎ミヤ[ザ]キケン	◎ミヤ[ザ]キ	—
熊本県	◎クマ[モ]トケン	◎クマ[モ]ト	—
鹿児島県	◎[カゴ]シマケン	◎[カゴ]シマ	—
佐賀県	◎[サガ]ケン	◎[サガ]	—
長崎県	◎[ナガ]サキケン	◎[ナガ]サキ	—
沖縄県	◎オキ[ナワケ]ン (OK)	◎オキ[ナワ], ◎ウチ[ナ]ー	—

以下の「～の人」は平良氏のみでの調査につき、すべて□付き相当の語形

オランダの人	ウラン[ダ]ー	ウラン[ダ]	—
アメリカの人	アメ[リカ]ー (中立的)	アメ[リ]カ	—
鹿児島の人	[カゴ]シマンチュ	[カゴ]シマ	—
広島の人	[ヒロ]シマンチュ	[ヒロ]シマ	—
島の人	シ[マン]チュ (OK)	シ[マ]	—
大和の人(本土の)	ヤマ[トゥン]チュ	ヤマ[トゥ]	—
久米島の人	クミ[ジマン]チュ	クミ[ジマ]	—
沖縄の人	ウチ[ナーン]チュ	ウチ[ナ]ー	—
那覇の人	ナー[ハン]チュ, ナー[ファン]チュ	ナー[ハ], ナー[ファ]	—
宮古の人	[ナー]クンチュ ([マー]クンチュ)	[ナー]ク (最初[マー]ク)	—
石垣の人	イシ[ガチン]チュ	イシ[ガ]チ	—
与那国の人	[ユナ]グニンチュ	[ユナ]グニ	—
与論の人	ヨロン[チュ] (OK)	ヨ[ロン] (OK)	—
沖永良部の人	オキ[エラブン]チュ	オキ[エラ]ブ	—
徳之島の人	トゥク[ヌシマン]チュ	トゥク[ヌシ]マ	—
大島の人	オー[シマン]チュ (名瀬を含む)	オー[シマ]	—
名瀬の人	[ナゼン]チュ	[ナゼ]	—
喜界の人	<普>キカイ[ジマン]チュ, <m>キカイ[イン]チュ (OK)	キカイ[ジ]マ, キ[カイ] (OK)	—
東京の人	[トー]キョーンチュ, ヤマ[トゥン]チュ (全体)	[トー]キョー	—
八重山の人	[イエー]マンチュ	[イエー]マ	—
西銘の人	[ニシ]ミンチュ	[ニシ]ミ	—
大田の人	オー[タン]チュ ウフ[タン]チュ	オー[タ], ウフ[タ]	—

複合語	比嘉複合語アクセント(平良)	前部アクセント	後部アクセント
嘉手刈の人	カテ[カルン]チュ	カテ[カ]ル	—
儀間の人	ジマン[チュ (OK)] 【ジ—[マン]チュ は未確認】	ジ[マ]	—
山城の人	ヤマ[グシ]クンチュ	ヤマ[グシ]ク	—
阿嘉の人	アー[カン]チュ	アー[カ]	—
宇江城の人	[ウエ]グシクンチュ, [ドーン]チュ (OK)	[ウエ]グシク, [ド—](堂)とも	—
宇根の人	[ウチャ]ムンチュ	[ウチャ]ム, ウ[ネ]	—
上江洲の人	ウィー[ジン]チュ	ウィー[ジ], ウエ[ズ]	—
奥武の人	[オ]ーンチュ (OK)	[オ]— (OK)	—
大原の人	オー[ハラン]チュ, [カイ]クンチュ	オー[ハ]ラ, [カイ]クン	—
兼城の人	カニ[グシ]クンチュ	カニ[グシ]ク	—
具志川の人	グシ[チャン]チュ (OK), (一度はグシ[チャーン]チュと)	グシ[チャ]— (OK)	—
島尻の人	シマ[ジリン]チュ	シマ[ジリ]	—
謝名堂の人	ヤラ[ドーン]チュ (OK), ジャナ[ドーン]チュ	ヤラ[ド]— (OK), ジャナ[ド]—	—
銭田の人	ジン[ジャン]チュ	ジン[ジャ]	—
鳥島の人	トゥイ[シマン]チュ	トゥイ[シ]マとも	—
仲地の人	ナカ[チン]チュ	ナカ[チ]	—
仲泊の人	ナカ[ドゥマイン]チュ	ナカ[ドゥマ]イ	—
仲村渠の人	ナカン[ダカリン]チュ	ナカン[ダカ]リ	—
比嘉の人	ジャー[ムン]チュ, <n>[ヒガン]チュ	ジャー[ム], <n>[ヒガ](元 地域が別)	—
比屋定の人	ヒヤー[ジョーン]チュ	ヒヤー[ジョ]—	—
真我里の人	マガ[イン]チュ (OK)	マ[ガイ](OK)	—
真謝の人	マー[ジャン]チュ	マー[ジャ]	—
山里の人	ヤマ[ザトウン]チュ	ヤマ[ザ]トゥ	—
仲里の人	ナカ[ザトウン]チュ	ナカ[ザ]トゥ (-[サ]トゥ とも), ナカ[ザト]	—
唐の人	トーン[チュ(OK)]	ト[—](OK)	—

